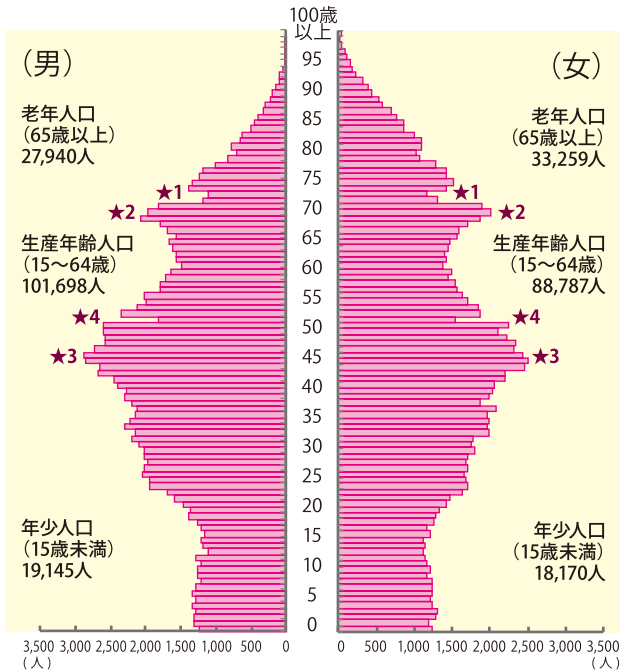


2 年齢別の人口

● 人口ピラミッド

鶴見区人口ピラミッド (H31.1.1現在)

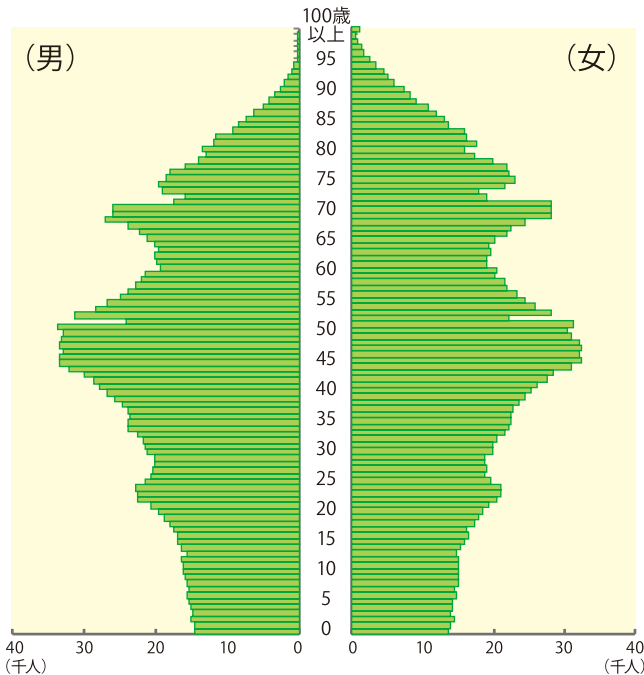


人口ピラミッドの特徴としては、第2次世界大戦終戦前後(★1)に出生減があり、その後第1次ベビーブーム(★2)、第2次ベビーブーム(★3)によって大きく膨らんでいます。また、その間にある大きな凹み(★4)は、1966年(昭和41年)の丙午による出生減となっています。

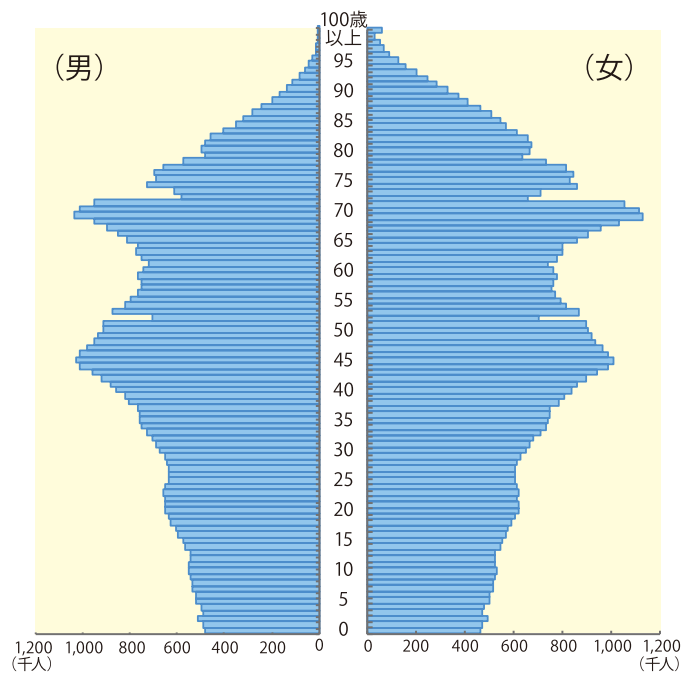
鶴見区の人口ピラミッドの特徴としては、40歳代の第2次ベビーブーム時期の人口が、70歳代前半の第1次ベビーブーム時期の人口より大きな山を描いています。また、15歳未満の年少人口が、横浜市や全国は減少傾向が続いていることに比べ、微増から横ばい傾向となっています。

資料：横浜の人口 年齢(各歳・5歳階級)別男女別人口
総務省統計局 年齢(各歳)、男女別人口及び人口性比
総人口、日本人人口

横浜市人口ピラミッド (H31.1.1現在)



全国人口ピラミッド (H30.10.1現在)



● 人口増減・社会増減・自然増減の数 (平成30年中)

資料：横浜の人口 人口動態と年齢別人口

	人口増減	社会増減	自然増減
鶴見区	2,225人	2,297人	-72人
横浜市	7,860人	13,456人	-5,596人

● 行政区別平均年齢 (H31.1.1現在)

資料：横浜の人口 男女、行政区、年齢3区分別人口、年齢構成指数及び平均年齢

平均年齢が低い区	👑	平均年齢が高い区
都筑区(42.22歳)	1位	栄区(48.53歳)
港北区(43.41歳)	2位	旭区(48.21歳)
鶴見区(43.91歳)	3位	港南区(47.84歳)
西区(44.18歳)	4位	金沢区(47.78歳)